

絶境・フェイクコート

artisan

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

俺は、ライダー共が嫌いだ。
だから、壊すと決めた。

目次

絶境・フェイクコート

いつも夢を見るんだ。前世の夢だ。

俺には前世の記憶がある。身体こそ変わっていないが、境遇を見る限りそうと捉えて良いんだろう。

15から16になる頃、俺は人体実験を受けた。

結果、俺は人を超えてしまった。人じゃなくなった。

「……………今日は初陣だ。俺1人で出る」

「大丈夫か？一応、お前はリーダーなんだぞ」

「ハハッ、アイツらなんかに負けるかよ」

俺は仮面ライダーが憎い。

世界を救い、人を救わないアイツらが嫌いだ。

だから、この世界に奴らが居る事を知って、チャンスだと思った。

「お、お前は……………!?!」

「戦兎さん達の事を知ってる……………?」

「お初にお目にかかる、正義ぶったクソ野郎ども。んじゃま、死んでくれ」

《Excaltibur……………!》

だから、これで殺してやるよ。

お前らの敵だったコイツを基に、自分だけの力を持った。

「蒸血」とも「潤動」とも違う。「変身」なんて以ての外だ。^{ほか}

外装はライダーじゃない者として、殺す者として。敢えて、新しい仲間ってやつのは、シンフォギアをモチーフに。

しかし、シンフォギアじゃねえ。うわさのファウストローブってやつでもねえ。

俺はバカだからさ、簡単な英語でしか名付けられない。

「その姿………テメエ、シンフォギアか!？」

「私達と同じ、だと………ッ!？」

「違う。お前らと同じ物を作る訳がねエだろ」

「これは、フェイクコート。所詮、これは紛い物でしかねエからなア」

ハッキリ言つて、お前ら全員がかかってきても。

仮面ライダーとシンフォギアが手を組んでも。

俺は、お前らより強い。

《Ignition! Excalibur!!》

「ガアッ!？」

「ぐああああ!？」

「………さっきの言葉は訂正してやる。これは、余興で宣告だからなア」

「宣戦布告だ。俺は、俺たち、【ネオ・ファウスト】は、戦争を仕掛ける」

「血を流すのはお前らだ」

エクストライブとかイグナイトとか、何でも使つてこい。

本気で殺す。本気で倒す。本気で、心を折る。

これは、お前らがやった事だ。

お前らの自業自得だ。お前らが、優先すべき事を間違えた、天罰だ。

喜べ、愛と平和の仮面ライダー。

喜べ、蒼い龍の仮面ライダー。

喜べ、燃え続ける心火の仮面ライダー。

喜べ、国のための仮面ライダー。

お前らのせいで、無関係な奴らが巻き込まれたぞ。

…だと言うのに。何故お前らは足掻く？

「負けるかアアアアアア！」

「彼等は、殺させやしないッ！」

「チツ……………此処は任せた」

「あいよ！んじやあ、行きますかア！」

「合わせるぞ」

《Longinus!》

《Mjolnir!》

何故強くなっていく？

何故、今になって俺たちを助けようとする？

その汚い手を、俺たちに伸ばすんじゃねエツ！

「行け、ノイズスマツシユ。炭に変えろ」

「話し合おうよツ！私達は、人間だよツ!？」

「だからだよ。だから、話し合えない事だつてあるんだ」

「…そんな事ないよ」

あるのさ。『選ばれた』か、『選ばれていない』か。

お前らは運命に選ばれた。世界に認められた。

俺たちは世界に見捨てられた。運命から外された。

お前らは白、俺たちは黒だ。分かり合えない。

そもそも。分りたくないんだよツ！

さあ、死合をしよう。

話は無用だ。

お前らが掲げる正義。俺たちの目指す正義。

どっちが正しいんだろうなア？

戦姫絶唱シンフォギアLP 外伝
絶境・フエイクコート

「……………
煙装えんそう」